音への意識を促す環境構成と関わりについて

―３歳児の音への興味・関心の変化に着目して―

教育実践高度化専攻　児童生徒発達支援コース　幼児教育実践系
越山　華音

本研究では、保育者がどのような環境構成や関わりをしていくことで、子どもたちが音を意識したり、興味・関心をもったりすることができるのかについて明らかにすることを目的とした。３歳児クラスを対象として、①音への意識を促す環境構成と関わり②音への意識を促すコーナー（以下「音のコーナー」という）の設置と関わり③音への意識を促す玩具の制作遊びと関わりの３つの調査を行った。

その結果、子どもが音を意識したり、興味・関心をもったりするためには、子ども一人ひとりの様子に合わせた保育者による環境構成と関わりが密接に関係することが明らかとなった。保育者が子ども一人ひとりの興味や関心に合わせて意図的に音を鳴らしたり、音のコーナーで意図的に音を鳴らしたり、音への意識を促す玩具の制作遊びができる場所をつくったりして、子どもが身近なモノから音の不思議さや楽しさを感じられる環境を構成していくことが重要である。また、環境構成に加えて、子どもが表現したい、伝えたいと思える言葉がけなどの関わりを保育者がしていくことで、子どもの様子に変化が見られた。

今後の課題として、異年齢や多様な保育環境での研究の必要性が挙げられた。また、好きな遊びをしている場面で音を意識できるように促すことが、歌や楽器を演奏するなどの音楽の遊びと分離することなく、どのように自然につなぐことができるのかについて考えていくことも必要であると考えられた。